

## 平成 28 年度 第 1 回羽咋市総合教育会議 会議録（要約）

1 日 時 平成 28 年 11 月 18 日（金） 11 時 00 分～11 時 56 分

2 場 所 羽咋市役所 302 会議室

3 出席者 羽咋市長 山辺 芳宣  
教育委員長 井上 克彦  
委員長職務代理者 西村 麗子  
教育委員 前田 美佳  
教育委員 今井 和秀  
教 育 長 北山 吉郎

（事務局関係）

総務部長兼総務課長 備後 克則  
総務課課長補佐 清水 吉朗  
〃 行政係長 木村 繁成  
教育次長兼学校教育課長 井上 和彦  
学校教育課学務担当課長 濱田 弘一  
〃 課長補佐 中野 好一

### 4 協議事項

- (1) 羽咋市教育大綱の一部改訂について（資料 1）
- (2) 当面する羽咋市の教育課題について
- (3) 平成 29 年度の教育関連事業について

### 5 会議経過の概要

次のとおり

○市長あいさつ

○協議事項

- (1) 羽咋市教育大綱の一部改訂について

資料 1 に基づき、事務局から説明後、案件を了承。協議中の意見等は下記記載のとおり。

- (2) 当面する羽咋市の教育課題について及び (3) 平成 29 年度の教育関連事業については、関連性が高いため一括して協議、意見交換を行った。主な意見等は下記記載のとおり。

## 【出席者からの質疑・意見等】

### <協議事項（１）について>

- (北山教育長) 少し補足説明をさせていただくと、従来のビジョンは、学校教育をはじめ、生涯学習、スポーツ、文化財など教育全般のことを網羅していたが、昨年度末に、現場の先生方に子供たちの指導にあたり、どのように取り組んでもらうかということに特化した内容に改訂をしたものである。
- (山辺市長) 従来の羽咋教育ビジョンが、学校教育の指導指針に変更されたということであるが、それは、県内の他自治体等の状況に合わせた動きなのか、それとも実態に合わせたものなのか。そのあたりはどのように考えれば良いのか。
- (北山教育長) 従来、石川県の「石川の学校教育振興ビジョン」というものがあつたが、平成23年1月に「石川の教育振興基本計画」に変更となり、現在、ビジョンという表現は使っていない。また、「羽咋教育」というのも範囲が広すぎるため、内容を学校教育に特化したものに変更し、併せて名称を改めたものである。
- (井上教育委員長) 今回の提案は、教育ビジョンから学校教育の指導指針に変更になったことに伴い、大綱の中で引用している文言を訂正することによって、それでよいのではないかと。
- (備後総務部長) それでは協議事項（１）については、ご了承いただいたということで、このように変更するというところで進めさせていただく。

### <協議事項（２）及び（３）について>

- (備後総務部長) つぎに、（２）の当面する羽咋市の教育課題についてと、（３）平成29年度の教育関連事業については関連があるので、合わせて協議していただきたい。教育予算については、事務局から予算を要求し、財政担当課が査定をし、最終的には市長が裁定するということになる。
- (山辺市長) 今日は、リラックスして意見を出していただきたい。最終段階に至るまで、ハードルがいくつもあり、最終的には優先順位を判断するという形になる。今日は、まずお聞きするというところでお願いしたい。ハード的な面では、羽咋中学校や余喜小学校の耐震化など、大きな問題はクリアしている。西北台小や邑知中学校にも課題があり、今後2、3億から4億程度の事業費が見込まれる。また、羽咋中学校なども完成はしたものの、今後本格的な借金の返済が始まっていくわけで、年間1億5千万円を15年間、合計21億を払っていくことになる。また、学校

統合の問題も避けて通れないと思っており、現時点でいつ、どうするということはないが、そういうことも踏まえながら最終的な判断を行っていききたい。

(井上教育委員長)

羽咋の教育の現状は、大変良好であると感じている。今後の課題として、現在の高い学力をどのように維持、発展していくかが重要と感じている。喜んでばかりはられないわけで、2つの面から対応が必要と考える。

①ハード面

羽咋中学校校舎が完成したことで落ち着いて学習が出来ている。先般開催された市内の小中学校の音楽会において、羽咋中学校の2年生全員による合唱があり、大変すばらしいものだった。昨年や一昨年と比較すると全く違うと思うくらいしっかりとした合唱であった。落ち着いて学習出来ている証であり、学校の環境は、子供たちの学びにとって、とても重要だと改めて感じた。羽咋中学校はいい学校になったが、一方では他の学校のことが懸念される。予算の問題は、なかなか大変だとは思いますが、最小限でも良いので、ハード的な部分の整備に配分をお願いしたい。

②ソフト面

特別支援員の配置が大きなポイントである。発達障害を抱えている子供たちや精神的に不安定な子供たちが増えてきており、普通学級の中でそういう子がいると学びの雰囲気が悪くなってしまう。全体として学力が上がらないというのがよく見られる現象である。そういう面では、羽咋の学校はしっかりと支援員の配置が出来ており、学びが落ち着いている状況。人的な費用で大変だとは思いますが、出来るだけそのあたりの配慮をお願いしたい。その他にも教育委員会事務局の方からソフト面の予算要求が出てくると思うので、あわせて対応をお願いしたい。

(西村教育委員長代理)

特別支援学級までいかないまでも、何らかの支援が必要な子が増加していると聞いており、普通学級における学校支援員の必要性を感じる。そのことが学力の向上にもつながる。現在15名が配置されているが、来年度は小学校18名、中学校2名の配置を希望したい。

また、市内の学校図書館の設備が充実し、貸出冊数も増えていると聞いている。司書については、複数校を兼任し、小中学校8校で、5名が配置されている。来年度は、各校1名の配置を希望したい。司書が常駐することで、貸出冊数の増加や図書館の充実となり、学力の向上にもつながる。

(前田教育委員)

現在の社会情勢等を考えると英語教育に力を入れるべき。平成32年には小学校の英語が教科化され、3、4年生や5、6年

生の時に、週に1回とか2回とか組み入れられる予定。それまでに、教える側の人をしっかりと確保すべき。国の方針でも、英語を母国語としている先生、いわゆるALTと呼ばれる方の人数を十分に確保することが必要。英語教育という面では、ナチュラルな英語を耳に入れる、話すということが大切。特に羽咋には金沢などの都会と違って周りに日常で英語を話す外国人がいないので、32年度までに十分なALTの人数を前倒して確保していくべき。

羽咋は、学力調査などでは優秀だが、英語検定の受検者数も少ないし、合格率が低い状況にある。学校側から受検を進めたり、検定料を一部補助するなど少しでも受検者を多くしていただきたい。集中的に英語を学ぶ場としてスーパーイングリッシュスクールやイングリッシュキャンプのようなものにも取り組んでほしい。

(今井教育委員)

羽咋市の学力がトップレベルにあるということで、これを維持していく先生方の努力も大変だと思う。国際化、技術革新が進んでおり、子供たちも将来学校を卒業して社会・海外等で活躍しなければならない。そこでICT（情報通信機器）の活用という点でも、子供のころから接しておいてほしいと思う。外国では、小さな子供がタブレットなどを自由に使いこなしているという時代であり、日本も乗り遅れないような環境整備が必要である。タブレットについては、全員分とまではいわないが、少なくともそういった機器に接することが出来るくらいの配置をお願いしたい。

(山辺市長)

教育委員のみなさん方からハード、ソフト面のご意見があった。ハード面では現時点ではトイレの洋式化や学校図書館へのエアコン設置などの課題があると聞いている。ソフト面では、特別支援制度の充実ということで、これも毎年上がってくる大きな課題と認識しており、しっかりと検討していきたい。

市では、職員数を継続して減らす努力をするなど経費節減に努めている。市の人口が減少すれば、国からの交付金も減るわけで、そうなるとどこかを減らさざるを得ない。財政の健全化という根本的な問題がある。その中で、教育の問題は重要であると認識しており、全体の中で判断させていただきたい。

英語教育の充実、ICTといったものは時代の流れである。日本だけとらえると、将来推計では1億人を切る見込みであるように人口減少傾向にあるが、世界では人口増加傾向にあり、現在の72億人が今世紀末には100億人に達すると言われている。世界全体を考えた視野を持たないといけない。一自治体がどうのこうのではなく、国全体が取り組むべき問題がたくさん

あると考える。食糧問題一つをとっても、日本は人口が減少していくので農業は衰退していくわけだが、昨年公務でイタリアに行った際に、今後の世界人口の増加を踏まえると、食糧問題は、非常に大きな競争産業になっていくであろうと言われ、そういった視野で物事を考えていかなければならないと痛切に感じた。

一期目の時に、ある市民から市内に「英語町」を作ってほしいという提案を受けたことが印象に残っている。これからは英語の時代であり、その流れに逆らうことは出来ないし、充実の必要性も認識している。情報化についても同様、グローバル化・情報化という時代の流れに遅れるわけにはいかない。情報通信機器は、時代とともにどんどん進化しており、その対応が求められている。しかしながら、情報が入ってきた時に、その情報を整理し取捨選択する能力を身に着ける必要がある。自分自身でも、手で字を書かないと年齢とともに字を忘れていくことから、事務機器ばかり使っているのは、文章を書く能力、字を書く能力が衰退しないかという点について、学校の先生方はそのあたりのバランスをどのように認識されているのか。

(井上教育委員長)

個人的には、小中学校において、一番力を入れるべきは国語力（読み書きの力）であろうと思っている。それに加えて、将来子供たちが置かれる様々な環境を見据えた対応をしていかなければならない。日本人は、物事を考えるときに日本語で考えることから、日本語の力がないことには英語の力も伸びないと考える。書くことがしっかりできないのに、情報機器だけで思考するというのが良いのかどうか疑問である。また、小中学校でタブレットを導入した場合にどのように使っていくかだが、子供たちがいろいろな話し合いや協議をする際の便利なツールとして用いると聞いている。このように子供たちがコミュニケーションを深めるために活用するといえるのであれば、有効なものになると考えている。英語についても、グローバル化は避けて通れないと思うし、大学入試においては、英語の教科の試験を課すという形式から英検・TOEIC・TOEFLなどの検定等の資格を受験（入学）要件とするような形式に変更されていくといわれている。小さいうちから英語に親しむ機会を増やしていかないと高い学力が身に着かないということにつながることから、子供たちの将来を考えるとやはり英語は重要なのかなと思う。それでも、基本は国語の力だと思っている。

(前田教育委員)

国語の力が大切ということだが、市内の学校では、電子辞書（タブレット）を活用すればすぐに検索できるようなものについても、紙の辞書で調べることを基本としていたり、感想文など文

章を書かせることにも力を入れている。読書についても、図書館の貸出し冊数が一定レベルに到達しているので、次は内容を多様な方向に向けるよう努力している。このような状況を維持しながらであれば、さらにタブレットを導入しても読み書きの力が衰えることはないと思う。

(井上教育委員長) トイレ改修の件だが、近ごろは各家庭のほとんどが洋式となっており、学校でも洋式がないと子供たちも辛いかもしれない。

(山辺市長) 市内の学校における洋式トイレの設置率は、43%であったと思う。改善に向け年次計画を立てて実施してく予定であるが、全体予算の中でどのくらい出来るのか検討していきたい。

(今井教育委員) トイレについては、設置率の低い学校から取り掛かっていただきたい。

(北山教育長) 自分は古い人間で、学校は地域の殿堂という思いを持っていた。学校へ行けば知らないことが何でも分かって、家に無いものが沢山あって、勉強は教えられるものだと思ってきた。

今の子供達は逆で、自分の家の中が優れた環境で、学校がそれよりも若干劣るという状況である。ICTのことにしても、各家庭にインターネットが普及するなんてことが想像できなかったが、今では無い方が不思議なくらいになっている。そういう子供たちの現状と教育現場との差を少しでも埋められたらと思っている。

家では出来ないこととして、例えば英語教育、それに特化したような施策を打ち出す必要性を感じている。教育予算の関係は、各委員にも賛同いただいているので、よろしくお願ひしたい。

(今井教育委員) 少子高齢化が進み、子供の数が年々減少している。将来複式学級化が見込まれるところも出てくると聞いた。もしそうなった場合に子供たちに不利にならないような対応をお願いしたい。

(山辺市長) 人口動態を見ると、社会動態では、転出より転入が多く増加しているが、自然動態では、死亡に比べ出生の方が断然少なく減少傾向となっている。昨年策定した人口ビジョンでは、2020年の目標人口を20,600人と設定し、市としても真剣に若者世代の出産・子育て支援の方策を考えている。自治体間競争も激しくなることから、それに対応できるような財政力・企画力を持っていかないといけない。委員のみなさんには、教育という問題からもう一つ大きい枠でご意見をお聞きしたい。

また、先般羽咋高校の校長先生が来庁され、羽咋市の教育レベルは非常に高いものの、高校受験となると七尾や金沢の方に行ってしまうと話された。そして、羽咋高校でも医師や教師などを希望する子が多いことから、そういう分野の方を校外から招いて講演していただくようなことも計画したい(未来塾)とい

う話をされた。

一方が良くなると他方では相容れない問題が発生するものであり、現在、羽咋郡市内から40数名が七尾高校へ通っているとのこと。贅沢な悩みといえばそれまでであるが、羽咋高校とすれば大きな問題であろうと思う。

また、一方では、羽咋工業高校にも関連するが、就職の問題がある。企業側が求人を出しても応募する人がいないという状況にあり、市内企業でも、どこも頭を悩ましている。

羽咋市だけではなくて、県内の求人倍率が1倍を超えている状況から見ても深刻な問題である。このように少子化の問題というのは、様々な面で弊害が出ている。

(井上教育委員長)

進学先としての羽咋高校と七尾高校の問題は、10数年前まではあまりなかったこと。邑知中学校から七尾高校へ行く子はほとんどいなかった。中能登町境の生徒が通学の便などを考慮し、七尾高校を選択肢とするケースがあった程度と認識している。しかし最近は違う傾向だそうで、志賀町でも七尾高校に進学する生徒の割合が高くなっていると聞く。学校側としても、七尾ではなく羽咋を選択してほしいと言うわけにもいかず、難しい問題である。教員や医師等を外部講師とする新しい取り組み(未来塾)に期待したい。羽咋高校を卒業して教員になる確率は、それなりに高いものがある。これを機会に七尾ではなく、地元進学へつながるよう期待したい。

(前田教育委員)

羽咋から七尾へ行く子が多いことは事実だが、一方で金沢と羽咋の間にある地域では、金沢ではなく羽咋を選んでいる生徒も多いことから、そういう面で羽咋高校は誇りに思っても良いと思う。

(山辺市長)

過去5年間の人口減少率を見ると、奥能登においては約10%、七尾・羽咋においては4、5%~8%の減、かほく地区では横ばいか微増、金沢周辺だけが人口が増えている。そういう中で、学び舎として羽咋を選んでいただけるのはありがたい。

羽咋から金沢まで車で40分、羽咋で仕事をしようと、金沢まで通って仕事をしようとかまわさないが、少しでも羽咋に定住してほしい。人口増加は難しいにしても、人口減少に歯止めをかけることが重要。住宅についても、大規模な投資は出来ないが、10戸、20戸といったミニ団地を造成し、若い世代の人たちに出来るだけ助成をして、土地を買い、家を建ててもらい、そしてそこに住んでもらうことが必要。駅東の住宅地10区画は完売した。市所有の遊休地がまだあるのでそれらを有効活用していきたい。工業団地もほぼ埋まっており、今後、大型のものは難しいが、ミニ工業団地というか、1社でも2社でも、常に

(備後総務部長)

働く場所を確保出来るよう行政として真剣に考えていきたい。様々なご要望も含めて、意見交換していただいた。今回の予算は、羽咋創生ということで、市長からも指示をいただき来年から政策に反映していく。その中で、羽咋に住む目的の一つとして、教育が非常に魅力的であると、ここで子育て、教育を受けさせたいという声も少しずつ聞いている。予算化の手順としては、事務局を通じて予算要求を出していただいて、今日ここで議論したことも含め、最終的には市長裁定ということになる。全体のバランスを考慮しながら、健全財政の展望の中で優先順位をつけていただくため、年次的なものも含め提案させていただく予定。今回いろいろとご要望いただいた案件については、そういう形で受け止めさせていただきたいと思う。つぎに、今後の会議の予定として、去年の段階では年2回開催の計画であったが、調整すべきことについては今日の会議で対応出来たと思うので、必要性が生じれば年度内にもう1度開催することとし、現時点では持ち越す課題はないものと考えているのでご了承願いたい。

## 6 次回会議開催について

今年度の会議については、当初2回開催の予定であったが、1回目の開催時期が11月と遅れたことに伴い、現時点では今年度中に協議しなくてはならない課題が見込まれないことから、協議の必要な案件が発生した場合には、年度内にもう1度開催することとし、そうでない場合は、来年度の初期段階を目途に事務局で開催日程を調整することとした。

## 7 閉会

井上教育委員長あいさつ